

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との交流をあまり好まない家族がいたので積極的に地域に溶け込むことが困難であったが、少しずつ理解してもらい現在は積極的におこなっている。	ボランティアの受け入れ。歌や踊りで地域住民と交流を実施。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、理念と行動指針を職員全員で唱和している。	仕事始めの一番に理念の唱和により心身共に仕事に対する心構えを持つ。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	経営理念と行動指針は、入居者、家族、外部者、職員の見える場所に掲示している。	皆さんが見てくださっている。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	理念の心で全ての人達と信頼関係を築くよう努めている。	笑顔がいいと周囲に評価されている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域活動に参加できる入居者は少なく(車椅子3名)近くに民家が少ない。	近くにコミュニティセンターがあるので行事に参加している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	夏祭り、七夕等でちょうちんを飾り、入居者は楽しんでいるが、地域住民まで巻き込みたい。		地域に住民が少ないので家族にも参加をして頂くように考えている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	年に一度の評価で受けた指導を活かし仕事に役立てている。		研修は一人ずつ冊子を作成した。又、ミーティングも記事として残すようにした。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業内容の報告や評価への取り組みを行っている。		地域住民への連携をよりよく進める為に、警察、消防だけではなく、地区消防団との連携を密にしている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	第Ⅲセクターで発足しているので、困った事、相談等何でも行政と相談できる。		年に何度かは町長と直接同席指導を仰ぐこともある。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	同じ建物内に社協があり、権利擁護事業を行っているので内容は承知している。		社内の事業所では活用している利用者もいるが、グループホームでは支援者はいない。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	信頼される職員を目指し、言葉使いには特に気をつけ、虐待と受け取られないよう注意を払っている。		利用者からの暴言で、青あざが消えない時期もあったが、その反動で虐待と言うことは一度もなかった。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関してはきちんと説明し、十分な理解を得ている。		入居者の方のレベル低下により、今後何が起こるかわからない。今後は必要な書類を作成する。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	どんな小さな不満でも離していただけるような雰囲気作りに努め、運営に反映している。		上司に相談し、より良い運営を目指す準備をしている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1～2度の通院日の来社時には、毎日の生活や変わったこと、楽しかったこと等を報告している。		体調不良時、不穏時は家族に報告し協力をお願いする事もある。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を置き、時々集まりには意見や不満等気付かないでいる事を教えていただければ運営に反映する手段にしている。		事業所内で話し合い、解決できない場合は上司に相談し運営に反映している。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に2回運営会議と、月に2回のケア会議を行い運営に反映している。		職員の意見を重視し、何をするにも何を始めるにも、提案を聞く機会を設けている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	通院、外出等は家族対応になっているが、緊急時は職員が対応できるように調整に努めている。		事業所に自動車を購入。緊急通院時は職員の対応がスムーズに出来るようになった。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動時は必要最小限の異動とし、ダメージに配慮している。		異動や離職は防ぎようがない事実なので、新職員に対し事業所に必要な勉強をしてもらっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内があると殆ど出席している。		自発的に研修参加を希望する人、又研修に参加するよう促すこともある。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は同業者との交流する機会を持つように、事ある毎に話すが、中々現場の人間はその機会を作ることが出来ない。		事業所開設当時は、同業者の良き先輩に恵まれ、施設見学やアドバイスを受けたが、現在は遠のいている。又指導を仰ぎたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年一度の忘年会はとても盛大で、運営者は全額負担し車代も一部負担します。		個人負担なしの忘年会は、運営者が職員に対し日頃の感謝とストレス軽減に向けた取り組みです。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、管理者に対して150項目、職員に対しては100項目の自己評価を年2回義務付け評価している。		職員は自己評価に対し、向上心を持って働いている。
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の身になってをモットーに聴く機会を作り受け止めることに集中する努力をしている。		本人が第一であり、信頼されるような聴き方に努める。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人とは違う家族の悩み、苦しみがあり、信頼される相談者として努力している。		ねぎらいの言葉から始まり、安心、信頼のもと傾聴する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時の対応はより早くを心がけている。		特にどういうところを見守るかに気をつけ、又手を差し伸べるかを把握する。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	何が出来るか、何ができないかを知り、本人に合わせたサービスをする。		歌が好き、散歩が好き、調理が好き、お話が好き、縫い物が好きと、その人に応じた楽しみを作っている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	同じ立場で喜怒哀楽を共にし本人から学んだり教えたり誉めたり誉められたりの関係を築いている。		畑作りの時は先生になってもらい指導を受けている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	一緒に本人を支える為、日常生活のことを報告する。特に喜んでいただいた事、感動した事を家族に伝える。		本人の情報はよいことばかりではなく、レベルの低下した部分も報告している。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	食事が進まない時など、お母さんが作った野菜ですよと食べて頂くこともある。		本人が家族を求める発言や行動のある時は、来社して頂いたり、たまには一緒に外出をお願いすることもある。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者の少ない人のために踊り、お祭り、敬老会、演芸会などのビデオを活用している。		若い頃、行た事のある場所を選んで、花見、ダム見学、紅葉狩り等家族同行でバスハイクを行っている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ホールのテーブルには一箇所に輪になって座り、皆さんの顔が見えるように、又話かけやすいようにしている。		いつの間にか、自分より弱い人をいたわる、世話をする光景が見られるようになった。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	居心地のいい場所であり、関係を切りたくないと思っていたく様に努力している。		努力の結果、現在は、皆様に継続していただいている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月二度のケア会議で、一人ひとりの暮らし方を話し合い良いケアに結びつけている、		家族様から得た情報も大事にしている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様も、信頼が出来ると今まで話さなかったことも話して下さる。		体調不良や気付きを報告すると、若い時からそうであるとか、それは、本人の癖ですと話して下さることもある。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の見守りの中で、一人ひとりの生活パターンを把握し、誘導によりスムーズな生活に結びつけている。		得意な事には、役割的に手伝って頂くようにしている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケア会議で、話し合い、内容を考え、又通院等の機会に家族からの意見をいただき計画に反映させている。		ご家族への定期的な面会もお願いし、普段の様子を見ていただいて、ご意見をいただいている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入院等で、体調の変化や、体力の変化が生じた場合、チームで検討し、新たに計画を作成している。又一定期間での評価をしている。		退院時の病院からの指示や、ご家族の意見、本人の体力を考慮した計画を作成している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活記録を各々の勤務帯毎に、個別記録に記入して、情報を共有している。		日常生活での変化や、発した言葉、表情などを記録し、生活の様子が分かるようにしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族の要望は、優先して取り入れ、一人ひとりの生活パターンに合わせた支援を心掛けている。		行事や活動への強制はせず、本人、ご家族の医師を尊重し、個個に対応するように心がけている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの方の受け入れは進んで行い、生活に変化と楽しみを持っていただけるよう工夫している。		公共施設への連携を取り、機関誌発行等で理解を深めている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	体調の変化等に伴った支援の活用、について担当ケアマネジャーや、ご家族との話し合いをお願いし、多様な支援を求めるようにしている。		本人、ご家族の希望があったら、他のケアマネジャーやサービスへも働きかけ、他のサービス利用へつなげている。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じ、連絡を取り合い、又ご家族への働きかけもおこなっている。		常に、何か困っている事はないか、本人やご家族に働きかけ、必要時はすぐ連絡をとっている。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時、ご家族に様子を伝え必要に応じて文書を持参して頂き医療との連携をとっている。		体調に変化が見られたら、主治医と連絡を取り、受診につなげるかどうか、考慮している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	隣に県立病院があり、内科、精神科の先生と連携を取りいつでも質問し、アドバイスをうけている。		認知の部分で困った事があれば、精神科の先生にお願いして講演して頂くこともある。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	県立病院の看護師と常に連携を取り相談にのっていただく。		全ての「科」において、いつでも電話で看護師に質問、相談の上行っている。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院が隣である為、何度も足を運び、医師と話し合いを持ち、必要とあれば連日行うこともある。		医師のアドバイスどうり、現在もつとめている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医師と相談の上、家族の希望するかぎり、終末期まで、介護したいと思っています、		ご家族から希望は無いが、あった場合取り組みたいと思う。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医療との連携をとり、状況等質問し、アドバイス受ける。		ターミナルケアについて、意識をもっている。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族の希望であっても、確認、情報提供受ける。		情報交換で、家族と話し合いを持ち、進める。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の保護に配慮、共有の必要性を理解する。		個人情報の管理は慎重に行っている。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	観察し、常に記録に残す。		障害を抱えながら生活している為、状況を説明、了解し進める。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの、ありのままの姿で暮らせるよう希望を叶える。		出来るだけ支障の無い円満な生活に、近づける。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その一人一人の異なる性格、日常生活を補う。		その人らしい生活、その人らしさを継続させる。
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前調理の準備で、切り方、味付けを行って頂く。		テーブル配置、献立の説明、器の選別、盛付けに配慮する。
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	状況、雰囲気任せ。		健康管理を行い、出来るだけ希望を叶える。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	常に声掛けにより、トイレ誘導、介助を行う。		個人によって、異なる時間を記録に取り、支援する。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	声掛け、タイミングを逃さない。趣味の話等して、上手に誘う。		歌の好きな方には一緒に唄いながら、誘導している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	表情確認で、状況に応じる。		個人的に希望であれば、声掛けにて入床休んで頂く。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	人それぞれ個人差がある為共感を持ち、信頼関係を築く。		自己実現の要求。会話の中で、その人らしい生き生きとした生活への支援。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財産を施設に預けている人もいる。必要に応じて、職員と一緒に、郵便局に払い戻しに行ったり、ショッピングを楽しむ。		財布の中身を絶えずチェックして、少なくなると訴えたりする。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常の安全と安定の要求。		買物、草花採集、畑作業、草取り等希望通り行う。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族との連携、外出許可。		本人が気兼ねなく過ごせる、又楽しみが倍増し身体にもプラス思考にある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	楽しい事が有ると、ご家族に知らせたいと思う気持ちを大事にしている。		安心して心が満たされ落ち着きのある生活にもどられる。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	お互いの情報を共有し、居心地良い場所を心掛けている。		満足し、普段の生活にもどる。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束に関して、研修を重ね、拘束の無い生活をしている。		声掛け及び見守りを継続。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	見守り、赤外線センサー音に耳を傾け『カギ』無しを実践中。		見守りケアを続行。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーの保護に努め、対応している。		常に安全安心で本人の気持ちに寄り添い温かい態度で接する。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	明確に示す。		押し付けにならないよう注意する。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事実を正確に伝え、報告事項の確認。		情報の共有を目的とし管理者や同僚と業務を行う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的な講習を受け熟知できるように努力をしている。		急変時職員同士の連携を取り速やかに対応するよう努めている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な訓練により確認し身に付けるよう努力している。		地域の方々への理解と協力を得られるよう機関誌等で働きかけている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入所時の説明は十分に行い、その後の生活の中で考えられるリスクについてはその都度説明を行っている。		リスクについての説明を行った際、ご家族からの意見を頂ご家族の意見を最優先している。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックの他、異変に気づいたら速やかにチェックを行いその後の情報共有と観察を行っている。。		速やかな対応を行う為、異変に気付いたら多方面の職種とご家族への連絡を取り相談し対応している。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書には必ず目を通し、各々の薬の内容を理解して投薬後の観察に努めている。		薬の服薬確認を行い職員一人一人の責任を明確にすることで誤薬の防止に努めている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便のチェックを毎日行い、又食事の摂取状況の観察等でコントロールの支援を行っている。		食事の内容にも工夫を加え、体操等で運動を促し、又便秘時には早めのコントロールを心かけている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の菌みがき支援を個々に行っている。		嚥下体操を行い、口腔ケアにつなげている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事や水分の摂取量のチェックを行い摂取量の個人差には個々に対応している。		摂取量を記録に残す事により一人一人の状況やバランスの把握もでき対応の不足には、速やかに対処している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染委員会があり、職員全員でマニュアルを熟知し実行している。		発症の予防に努め、発症時の速やかな対応にもきちんと備えている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は新鮮な物を使用し、加熱調理には十分気をつけているし、調理器具の消毒は十分行っている。		食材の購入はこまめに行い長い買い置きはしないようにしている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りはいつも整理し、きちんと掃除を行い清潔に努めている。		建物周囲に花を植えたり外観からも親しみを持っていただくよう工夫している。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の生理整頓に努め、季節毎の花や作成した絵を飾ったりして癒しの空間も心掛けしている。		共用ホールでは、癒しの音楽を流したり、余分な光はカーテン等で保護する工夫をしている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでのテーブルの位置を決め、自分に居場所を確保するとともに、自由に利用できるスペースも作っている。(コタツ、ソファ)		それぞれの状況で好きな居場所を自由に選んだり行き来できるようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全て個室であり、個人の物を持ち込み自由に自分の空間作りができています。		本人と話し合い不便を解消しながら時々居室の物の位置を変えたり整頓したりしている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間の換気システムにより調節されており、必要に応じ窓を開放し温度、湿度を見ながらきちんと調節している。		不快な臭いは速やかに解消できるように努め、消臭剤の利用もしている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	広さは十分取られており手すり等も適切な場所についている。		個人のプライバシーはきちんと保たれるような工夫をされている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人の生活パターンを把握し、混乱や失敗が無いよう事前に誘導、対応するようにしている。		いつもと違うパターンの行動が見られたら見守りを増やし対処に努めている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	居室ベランダ側での外気浴は自由に行えるよう活用されている。		建物周囲の外気浴には、職員が付き添い楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)